

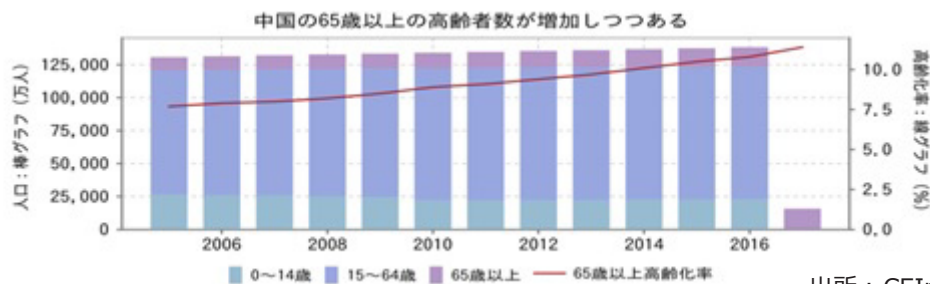


中国老齡化問題及び介護ビジネス

簡易現状紹介2018年8月

I 中国人口老齡化現状及び動向

- 2017年に65歳以上の人口の割合が11.4%になった。中国の65歳以上の高齢者人口は1億5,831万人で、中国は世界で唯一高齢者人口が1億人を超えている国である。
- 国連のデータによると、中国の高齢者人口は2020年に1.7億人、2030年に2.3億人とさらに増加すると見られる。ほかの先進国に比べ、中国は高齢者人口の規模が大きいこと、高齢者人口の増加スピードが速いことが特徴と言える。
- 「一人っ子」政策の影響で、1人または老夫婦だけで暮らす高齢者世帯が増えて、介護サービスへの需要が高まっている。



● 地域特徴

◆ 東北部

2017年末時点で、遼寧省の65歳以上の戸籍上の老年人口は全体人口の14.37%、吉林省と黒竜江省それぞれ2.38%と12%で、全国の平均レベルを上回っている。

◆ 北京、上海、天津、浙江の老齡化も非常に厳しい状況である。

2017年、北京の場合は戸籍上の人口においては65歳以上が16.2%となっている。ただ、北京と上海等の地域は流動人口が多いため、東北三省のように人口流出がある地域とは異なる特徴を持っている。

- 「未富先老」(富ができる前に老いる)
- 「未備先老」(高齢化社会に備える社会的な仕組みができないうちに老いる)

II 養老、介護施設の費用負担現状

- 現在、中国の養老施設サービスシステムにおける最大の問題は、低コストの養老施設の欠如である。
- 中国の高齢者は貯蓄をしていない傾向にある。また、介護を必要とする高齢者世代の年金収入に限られる上、公的な介護給付制度が脆弱なため、気軽に介護サービスを利用できる状況ではない。
- 現在の市場状況によると、公的養老施設の平均月額費用は 2000 ～ 4000 円で、私立施設は低、中、高に区分され、低は月額 1500 ～ 3500 円、中は 3000 ～ 8000 円、高は 8000 円以上。現実には、中小型の施設はベッドが不足しており、8,000 円以上のところは入居率 30%未済である。

III 中国の介護労働者の現状

- 中国において、介護サービスの提供者で専門的な介護知識と技能を持っている人は少ない。
- 法規、政策上も業界に導入された統一した基準がない。よって、一般的に介護労働者の教育レベルは低く、出身も農村部の農民か都市部でリストラされた 40、50 歳が中心となる。彼らは固定した収入源がなく、スキルもなく、総合的な能力も低いのが現状である。北京の介護従事者協会の統計によると、北京の介護労働者で、中卒以下が約 40%-50%を占めている。
- 近年、介護労働者は国民の生活において不可欠な部分となっている。調査によると、老人が入院した際、一人っ子夫婦の 80%は介護労働者を必要とする。高齢化社会に加速に伴い、社会的に介護労働者に対する需要がさらに増えるであろう。但し、巨大な市場の需要を前に、全国的に介護労働者が不足している。
- 中国社会科学院の調査によると 2020 年までに、中国で体の不自由な老人は 6852 万人、寝たきりの老人は 599 万人になる見込みで、必要な介護労働者は 657 万人である。しかし、研究予測によると現在 500 万人の介護労働者が不足している。

IV 介護労働者が不足している原因

- 介護労働に対する古い観念の影響
汚い仕事、疲れる仕事等のイメージから実質的には雇用差別もある。
- 業務内容の過重のわりに低待遇
低い給与、社会的地位の低さ、専門性の欠如、キャリアアップの欠如等が挙げられる。
例えば、北京で介護労働者の平均月給は約 4,000 円である。
- 介護人材に関する政府部門管理の不足と教育環境が整備されていないこと。

V 中国の介護サービス - 環境分析

- 養老 / 介護施設への入居希望者が減少されている反面、在宅介護サービスのニーズが増加している。
- 施設運営においては、市場を寡占する企業が少なく、都市部・農村部のエリアごとに運営している企業が多い。
- 中国民間介護サービス企業の収益性が薄いことから、国内では、介護サービス事業を展開するよりも養老不動産形での業界参入が多い。

VI 中国の介護サービス - 外資系の参入

- 巨大な市場ニーズを狙い、中国に進出する外資系介護サービス企業が相次ぐ。
- 主に 3 つの外資主体がある。
 - ◆ 1 つ目は CPM、Emeritus、Fortress、ABHOW を代表とする「アメリカ系」
 - ◆ 2 つ目はリエイ、ウイズネット、大阪ロングライフホールディングス、韓国 Shuyou Group を代表とする「日韓系」
 - ◆ 3 つ目は Colisée と Orpea を代表とする「フランス系」

外資系高齢者ケアサービスは、主に北京、上海、広州などの第一線都市、大連、青島、常州、南京（特に長江デルタ地域）の第二層都市に位置している。高い消費力、確実な高齢化傾向、開発の余地があるのが特徴である。

外資系	投資主体	備考
アメリカ系	Emeritus、CPM	上海、北京、寧波、蘇州に6つの施設を開設した Kaijian International を共同設立。
	Fortress	Fortress は Fuxing Group と協力して、2013年、2016年、2018年にそれぞれ施設を設立。
	ABHOW	ABHOW は北京 Taikang Home、Yanyuan は Taikang Pension Community と国際運営チームを構築。
日系	日本リエイ	上海では xietong グループと提携
	WISNET	WISNET は大連市政府と提携
	日本大阪ロングライフホールディングス	青島で初の日式高級老人ホームを開設
韓国系	韓国書佑集団	九如城グループと提携し、韓国の bobath 療法と管理理念を導入
フランス系	Colisée	Colisée 広州で高級老人ホーム、ベッド数 132 個
	Orpea（欧葆庭）	2016年に正式運営、ベッド 140 個、長沙のセンターは 2018 年年末に正式開業予定、ベッド数 385 個。

Ⅶ外資系参入特徴

- コミュニティ結合型、医養結合型、CCRC 開発モデル

CCRC：仕事をリタイアした人が第二の人生を健康的に楽しむ街として米国から生まれた概念。

元気なうちに地方に移住し、必要な時に医療と介護のケアを受けて住み続けることができる場所を指す。

- ハイエンドの養老市場狙い
- 介助介護市場に参入
- 全面的に在宅介護市場に参入
- 古い施設の改装利用
- フランチャイズチェーン経営の展開
- ローカル企業との戦略的提携
- 派生産業への積極的な参入

参考文献

霍思伊，環球網 2018-08-13

搜狐網，「深度、護工“荒”還是護工“慌”」 2018-06-29

經濟參考新聞 2013年11月01日「介護業界の人手不足が深刻、介護労働者500万人足りない」

搜狐網財經 2018-07-04「中国の養老産業に参入する外資系の8つの運営特徴」